

西日本インカレ女子結果報告及び報告書の発行について

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

7/6～9 に広島県立総合体育館をメイン会場として、西日本インカレ女子大会が開催されました。

広島大学女子の結果は、以下のとおりです。

予選 1 回戦 vs 大阪体育大学

●0-2 (9-25、11-25)

予選 2 回戦 vs 名古屋学院大学

●0-2 (6-25、11-25)

(最終結果)

優 勝 龍谷大学

準優勝 神戸親和大学

第 3 位 帝塚山大学

第 3 位 京都橘大学

(広大バレー部 Twitter)

<https://twitter.com/hiro daiVOLLEY>

皇后杯から中 3 日、その皇后杯と全く違ったのは相手のサーブでした。対戦した 2 校とは、中国リーグだと 1 部上位に匹敵するほどの力量差があり、サーブで崩され、切り返しの攻撃で圧倒される場面がほとんどでした。これまでの相手では決まっていた大前の攻撃も簡単に止められ、こうなれば決まると言う得点パターンの甘さ、弱さが浮き彫りになりました。出場チームの中には身長が変わらない選手もたくさんいましたが、体の引き締め方が全く違い、ボール練習以前の部分で根本的に鍛え直さないといけません。今回、自主練のレベルが低すぎるという指摘もいただきましたので、時間の使い方、練習の取り組み方を見直して欲しいと思います。

終始後手の展開にはなったものの、同じフェイントにやられないよう工夫したり、長いラリーでも有川がコートの中で勝負し続けて得点したりと、苦しい状況ながらも目的意識を感じました。特に、1年生の岩永、大嶋の存在感は日に日に増しており、長谷川も含めてまだバレーボールをほとんどしていない印象です。1年生が取れるボール、取るべきボールも他の上級生が取ってしまうことが非常に多く、特に4年生は1年生をもっと信頼し、1年生にコートを任せないとチームの成長はありません。今の4年生が下級生だったとき、当時の上級生に任せてもらったからこそ今があるはずなので、この夏で1年生に大学バレーを叩き込む覚悟と姿勢を持たなければいけません。最上級生にもなって自分が上手くなろうとしているようでは、これまでの信頼すらいとも簡単に崩れてしまいます。最上級生はチームの成長を第一に考えてこそ、自分の成長につながります。我慢強く下級生を育てる文化を、次の世代に引き継いで欲しいと思います。

今大会は、決勝戦で主審、副審を務めていただいた38期の冨田先生、横山先生をはじめ、審判員として45期の大信先生、47期の関野先生、65期の山崎先生、指導者として54期の古達先生、59期の西先生、また、66期の遠藤先生、森口さん、69期の山根さんに会場に足を運んでいただきました（漏れがありましたら申し訳ありません）。西日本インカレは、中国学連にとって1年間で最も規模が大きい大会であり、学連委員長の羽角、副委員長の尾崎を筆頭に、たくさんの広大バレー部同窓生、現役生の尽力により、今年も無事に閉幕いたしました。ご支援いただいた皆様、本当にありがとうございました。

さて、先日、2023年広島大学体育会バレーボール部「同窓会講演会・総会」報告書を発行いたしました。講演会では、37期の室先生に「これからの教育に求められることって何だろう」と題してご講演いただき、質問が絶えないほどの盛況となりました。また、昨年の「コートの仲間」では部旗及び横断幕について大変貴重なエピソード等をお寄せいただき、文字・文章は変えずに「広島大学体育会バレーボール部同窓会」として更新することを決定いたしました。同窓会費・援助金のご案内についても同封させていただいておりますので、引き続きご支援ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

次回のチームとしての公式戦は、9月の五大学まで間隔が開きますが、8月には、65期の金尾先生、66期の浴田先生をはじめ、たくさんの同窓生に来学いただける予定となっております。

飛躍の夏に向けて、引き続きよろしくお願いたします。